

海外のように広々と明るく自然素材を使って、心地いい空間に……。タイルの張り方まで指定した「100%私好み」のキッチンです！



広い6畳のキッチンは、「わが家の中心なんです」。壁際の木工家具とアーチ形のドア、飾り棚など、ご主人の作品が並ぶ。

1 木工家具と窓上の飾り棚は、奥さま発案、ご主人製作の共同作。ぼうろう容器やかごは、「見せる収納」で楽しく。2 益子焼やアメリカ製のものなど、国内外の食器を飾ったシェルフ。ワインの木箱に布を張り、棚板をつけてリメイクしたもの。3 背もたれのカーブがおしゃれな椅子は、鉄の加工から溶接までご主人が手がけた力作。



溶接もできるご主人のDIY作品たち

ぼうろうの鍋や、たくさんのキッチンツールが並ぶ壁は、まるでカフェキッチン。使い勝手よく配置され、実用性抜群。



すがすがしい白いタイルと、あたたかな木の存在感、そこに明るくさし込む光……。まさに「ナチュラルキッチン」の趣です。そんな石川さんのキッチンのモデルは、オーストラリアにありました。「10数年前、ワーキングホリデーで滞在していたんです。そのときに見たキッチンが素敵で！」そこは料理するだけでなく、大好きな人たちが集う開放的な場所。そんなキッチンが欲しい！という奥さまの強い願いは、1年前に家を建てたときにかないました。「娘やママ友達と一緒に料理ができること」を絶対条件にして、工務店と打ち合わせすること10回以上。大人数でも使いやすいL型の対面式を採用し、シンクと壁の間は動きやすいように広々と。調理カウンターの幅や高さも、入念に検討。もちろん、収納もたっぷり！ほかに、個人輸入した水栓金具を使ってほしいなど、「かなり、わがままを言いました」と奥さまは当時を振り返ります。

こうして、ありったけの夢を詰め込んだキッチンは毎日、朝から夜までフル回転。「おいしいね」の声と笑顔があふれています。

キッチンからダイニングとリビングが一望。ランチ会をするママ友達にも、料理や飲み物が運びやすいと大好評。



“ひと味違う！”奥さまの細部へのこだわり

1 海外で見つけたつまみは、花が咲いたような可愛らしさ。2 華やかなペンダントライトのシェードは、ベネチアンガラス。「お花畑みたいで、料理が楽しくなります」。3 キッチンの近くにあるニッチは、家を守るといわれる馬蹄形に。4 調理カウンターには「大小のタイルを使って、角には丸みを」と、職人さん泣かせのリクエストをしたもの。子どもが少々ぶつかっても平気。



調理カウンター下の棚に、北欧調の布を張って。背景をつくると奥行きが出て、雑貨が映えるコーナーに。

